

〔特集〕チーム医療における病院薬剤師の役割

従来、病院薬剤師の役割というと医師が交付した処方箋に基づく調剤業務や医師の指示による薬剤管理指導業務といった定型的な業務が中心であった。そこでは基本的に医師の指示を遵守し点検することが優先され、業務も薬局内に限られる傾向があったことは否めない。しかし近年、病院ではチーム医療を支える薬物療法の専門家として期待される役割は大きく広がっている。

チーム医療を支える医療職は、常に患者中心に業務を考え、それぞれの分野の専門職として患者の利益を守り、提供されるサービスの質の向上に努める責任がある。病院薬剤師も1人ひとりの患者に安全なサービスを提供するために、より患者に近づくことが求められている。活動する場所も薬局から病棟、外来へ出向き、チームの一員として患者に関する情報を効率的に収集し共有する必要がある。そのうえで個々の患者に最適で安全な薬物使用に関する提案をする力を養わなければならない。

一方で薬剤に関する専門家として最新情報をチーム内に提供し、指導する役割も大きい。特に感染制御や医療安全などに関しては薬剤師が自律し責任を持って院内の中心的役割を担うことが求められている。単に薬剤に関する情報提供にとどまらず、院内の状況を把握し、システム全体の改善等についても提言できることが望ましい。また、薬剤使用に関しては経営面でコストの大きな割合を占めることも事実であり、そういった面から病院経営にも直接影響を及ぼす。病院薬剤師は提供される医療サービスの安全と質の向上に努めることで病院の運営を下支えしながら、病院全体を効率的に管理する大きな力となるのである。

薬剤師教育において実務実習が拡充され、臨床を重視した6年制教育へと大きく変更された今日、病院薬剤師には医療専門職チームの中でさらに重要な役割を担うことが期待されている。いかに優秀な薬剤師を確保し、活用するかが病院運営に大きく影響を与える時代となってきたと言えよう。

山田 隆司

台東区立台東病院 管理者